



コロナ禍での金沢がん哲学外来「オンライン」

金沢がん哲学外来運営委員

小石川 均

学生時代の友人ふたりががん患者となり、いずれも治療して安定した状況にあり、安心して交流していた。しかし、2019年12月末に友人の夫人から突然の訃報の電話があった。コロナ禍前であったので友人らが葬儀に集結した。元気なうちにみんなで集まろうと約束したが昨年は新型コロナ感染により会うことが困難になった。金沢がん哲学外来も2020年2月開催は急遽会員研修に切り替えての実施、6月の開催は中止せざるを得なくなった。また、5月に予定していたアドバンスコース研修会は延期となった。

コロナ禍での活動継続の方策を検討し、金沢がん哲学外来で毎月開催していた定例会は、5月から実験的にオンラインで始めた。オンラインとはいえ、久しぶりに会員の顔を見ることができてほっとした。オンラインで何ができるのかの検討をしながらのスタートで、暗中模索の中、11月と2月の講演会は115人、143人の申込者で開催した。

しかし、オンラインでの個別相談はまだ手つかず！このような状況の中で私の友人のがん再発の連絡、コロナ禍で直接会えない状況を打破してくれたのがオンラインだった。接続困難等の問題があったがなんとか各地の友人がオンラインで集結でき、顔を見ての交流は大変好評だった。

顔を見ての交流は参加者にリアルな今・ここでの生の思いを喚起し、格別の効果をもたらします。

今後、新型コロナ感染が収まったとしても「オンラインによる空間を超えた交流手段」は残り、「温もりのある対面」での活動と相まって広がっていくものと思います。オンライン利用の習熟困難や、利用者の中には抵抗感もあります。もっと人間に優しい利用しやすいオンラインの実現を期待したい。

次回はさらに大勢の方の参加をお待ちしています。宜しくお願い致します。

「役割意識と使命感」を持って

新座志木がん哲学外来・カフェ主催

岸尾 光

「新座志木がん哲学外来・カフェ」は現在埼玉県新座市と志木市を中心に活動しています。新座市ではキリスト教会の地域貢献の一環として2014年4月20日に樋野先生をお迎えしての開催記念講演会を皮切りに、毎月第2日曜の午後に2時間枠で開催しています。その後2018年7月から、志木市のがん患者さんの呼びかけにより地域包括支援センター館・幸町の協力を得て、隣接する志木市でも別途「新座志木がん哲学外来・カフェ in 志木ニュータウン」を開催してきました。こちらでも樋野先生の講演会を2019年5月に開催し、70名が集まりました。

しかし、昨年新型コロナウイルスの拡大を機に両活動とも休止に追い込まれましたが、「新座志木がん哲学外来・カフェ」は変則的なトライアル開催を経て今年の1月からzoomで毎月開催。現在は関西方面をはじめ遠方から参加する方もいてブレイクアウトルームで分けるなど工夫しながら実施しています。

オンライン開催には参加できない方もいらっしゃるなど限界はありますが、幸いにも参加される方には何かしらお役に立っているようです。そして活動休止が続いている「in 志木ニュータウン」にも再開の兆しが…。

今まで多くの方々に支えて頂きましたが、コロナ禍においても「人生いばらの道、されど宴会」等、樋野先生の言葉の処方箋を頼りにスタッフや参加者の方々が「役割意識と使命感」を持ってカフェを作り上げて来て下さったゆえに、今まで継続できています。

末筆ながら東日本大震災から今年で10年となりましたが、市民学会とコーディネーター養成講座で石巻を訪れて以来、私は震災となると石巻に思いを馳せるようになります。石巻の皆様の平安のためにもお祈りさせていただきます。

## NHK 大河ドラマ「青天を衝け」

渋沢栄一記念王子がん哲学外来メディカル・カフェスタッフ 江川 守利



### ◆スタッフのみなさん

ちょうど、このニュースレターの原稿依頼を頂いた時、「新渡戸稲造、我、太平洋の橋とならん」を読み始めたところでした。新渡戸稲造と渋沢栄一は日米関係委員会や太平洋問題調査会などで一緒に問題に当り、新渡戸稲造は王子の飛鳥山にある渋沢邸にも訪ねています。

さて、その王子の飛鳥山公園内にある渋沢史料館で2014年9月28日に「渋沢栄一記念王子がん哲学外来」は設立記念講演会を開催してスタートしました。

当時は全国各地に徐々にがん哲学外来メディカルカフェが出来始めた時期で、樋野興夫先生に浅草のメディカルカフェで「渋沢栄一記念王子がん哲学外来はどうか」と尋ねてみたところ、直ぐに手帳を開かれ、設立記念講演会が決まりました。

それからが大変でした。講演会の場所はどこにしようか、講演者はどうしようか、と探し回りました。渋沢栄一と名前を付けたのだから飛鳥山公園の渋沢史料館で出来たら良いと思いましたが、ダメもとでお願いしたら、「史料館見学を兼ねれば良いですよ」と言っていただき、即効性と英断で決まりました。講演者も樋野興夫先生と現在NHK大河ドラマ「青天を衝け」の時代考証を担当しておられる渋沢史料館の井上潤館長となりました。

それからは王子駅近くの北とびあの会議室で月1回メディカルカフェと年1回周年記念講演会を行って来ました。現在はコロナ禍でメディカルカフェは行っておりませんが、オンラインでスタッフ会議を行い、様子を見ながら再開を検討しているところです。大河ドラマ「青天を衝け」や1万円札の顔で渋沢栄一が注目されており、王子も盛り上がっております。渋沢栄一の生き方に学び王子がん哲学外来を進めてまいります。

## 「10年目を迎えました」

福井県済生会病院メディカルカフェ 車屋 知美 吉川 千恵

2011年8月5日、夏の暑い日に第1回メディカルカフェを開催しました。

同年6月、樋野興夫先生にお越しいただき4組8名の方に初めて「がん哲学外来」を受けていただいた際に設立が決まり、2か月後の開催にこぎつけるまでは今思い返してもめまぐるしく、会議室として使っていた1室から始めました。当院はカフェ形式のメディカルカフェと、個別の対話の場「浅井三姉妹記念 福井がん哲学外来」の2本立てで行っております。その名前は、NHK大河ドラマ(2011年)に由来します。その時代をいかに、「ユーモアを持って、冗談を本気で」という樋野先生の教えにより命名しました。設立時より当院のメディカルカフェでは、多職種が参加しています。病院中心で運営するのではなく、あくまでも患者さんが中心となるような形を重視しています。

2013年からは「メディカル情報サロン」という明るい、新しい部屋で開催しています。そんな当院のメディカルカフェも今年で10年目を迎えます。

新型コロナウイルス感染症の影響でメディカルカフェの開催を中止した時期もありましたが、2020年6月からは感染症対策を徹底しながら毎月開催しています。

直近のカフェは2021年3月5日でした。第112回目の開催となりました。

この回はご自身もがん患者である方に講師をお願いし椅子に座ったままでできるヨガを行いました。新型コロナウイルス感染症と大雪の影響で凝り固まっていた心と身体がほぐれて、その後のフリートークの時間ではゆったりした温かい笑顔で皆さんが話されていました。その中には「家に引きこもっていたけどこういう所があると知って勇気を出して来ました。楽になりました」と話された初回参加の方もおられ、同じ空間で自らの体験を共有できる場の大切さを改めて感じさせられました。

